



# 念じられ 照らされて

## 地上の人

寺脇由訓

「みんなの悩みや不幸をこの足に宿し、私がここを渡りきってあの大海原へ放つてこよう!!」。

そう叫び、高さ三メートル、長さ十五メートルほどの綱の上を、彼は正座のような姿勢で足を引きずって渡りきった。

そして、国を代表する楽団の伝統曲が高らかに弾き上げられる中、綱の上で何度も宙を舞い、時折こう叫ぶ。

「イロボケー!!!」  
すると地上に立つもう一人が「アーイー?」と返す。

このお話、舞台は韓国なんです。綱の上を舞うこの方はキム・デギョンさんという、国を代表する

伝統綱渡り師で人間国宝。あちらでは宙を舞う綱渡り「チュルタギ」と呼ばれ、庶民に親しまれる伝統大道芸として一三〇〇年の歴史があります。近年、韓国では世界中から綱渡りの腕自慢を集めて大会を開いています。十年ほど前、私は音楽家としてこの大会に参加していましたが、キムさんたちのパフォーマンスに心奪われていました。ところで「イロボケ」って、なんでしょう。人の名前なのか、「おーい!」のような掛け声なのか。どちらにせよ「なんだい?」という優しい感じのトーンで「アーイー?」と返すので、この地上の人を呼ぶ

掛声で間違いないでしょう。二人の演劇の一幕のような会話が続き、ぐるりと取り巻く観衆からは何度も笑いが起きます。そして再び楽団の演奏とともにキム氏は華麗に綱を渡り、地上の人は両手にセンスで踊り出します。さて、この地上の人「イロボケさん」、綱の上のキムさんを立てながら、よく通る声で何度も相手を手に入れます。明るく元気がいいのでうるさくないし、邪魔じゃない。むしろ彼が相槌を打てば打つほど、場は盛り上がるのです。その上、コミカルな動きを入れながら綱渡りに挑戦して失敗する姿まで見せ、お客さんの心を鷲掴みにします。後にご本人が、「渡るだけなら容易いことだ」と言っていましたので、わざと

「できない人」を演じていたわけです。日本には古来から「八百長」という文化があります。これは現代では嘘つきの意味で使われがちですが、八百の長という文字からもわかるように、悪い意味ではありません。和をもって尊しとなすために滅私の精神で相手を立て、他者に諭られぬように白星を献上するというのがその由来です。私も真蓮寺にきつかけをいただき、正信偈を学び知ったことの一つに、「従果向因」という言葉があります。本師本仏の阿弥陀さまが、人々をこの世の苦しみから救うために法蔵菩薩と名乗り、あえて世自在王という仏の弟子になりました。人々と同じ目線で縁を持つためのこの行為を「従果向因」というそうです。確かに、綱渡りの主役はキムさんで、イロボケさんは脇役のようでした。でも、知らない人や出来ない人に寄り添い、あえてお馬鹿を演じる彼のような生き方にこそ主役を感じたのです。それは舞台を終えた後の宴席でも同じでした。

地上の人から学んだ海の向こうの大切な思い出です。



<略歴>  
1978年、神戸市生まれ。音楽家。舞台音楽や奉納演奏など幅広く活動。浅野温子「古事記読み語り」専属音楽家。HIDAKI代表。

### 高山別院 報恩講

11月1日～3日  
～主な催し～

- ◆報恩講の夕べ  
岐阜で活躍する田中旭泉師による琵琶演奏会  
日時 11月1日(月) 午後6時30分  
参加費 無料 会場: 本堂
- ◆第39回真宗公開講座  
日時 11月2日(火) 午後7時(御伝鈔拜読後)  
講師 竹田雅文氏  
講題 「飛驒の太子信仰」  
参加費 500円 会場: 本堂
- ◆帰敬式  
日時 11月3日(水祝) 午前10時～11時15分  
冥加金 13,000円 会場: 本堂  
※事前の申込みが必要です。(申込締切10月8日)
- ◆聖徳太子1400回忌展  
日時 11月1日～3日 午前9時～午後3時  
会場 別院寺宝館(庫裡2階)  
入場料 無料

### ご坊文化芸術祭

ザ・リトル・リトル・ピクショウ  
The Little Little Big Show

開催日 10月24日(日)  
時間 第1部 午前11時 第2部 午後3時  
会場 高山別院  
入場料 500円 前売チケット 取扱: 高山別院  
出演 ファニーボーンズ 曾爾テラワキ

世界約25カ国でパフォーマンス経験を持ち、言語を使わずに観客を楽しませるコメディアーティストと、イオンカやパンスリー・アイリッシュフルートなどの異国伝統楽器を操る演奏家のスペシャル公演!

※コロナ感染状況によっては延期の場合もありますので、予めご了承ください。

### 秋季彼岸会。永代経法要

9月20日～26日  
午後1時から勤行・法話

26日(日)	25日(土)	24日(金)	23日(木)	22日(水)	21日(火)	20日(月)
窪田	四衢	江馬	三島	帰雲	細川	三枝
哲氏(圓徳寺前住職)「ほんこさま」	亮氏(不遠寺住職)「念仏の教えと私たち」	雅人氏(賢誓寺住職)「三つの宝「仏・法・僧」」	多聞氏(別院輪番)「安心(あんしん)から安心(あんじん)へ」	真智氏(還來寺住職)「真宗門徒の終活」	寛氏(浄慶寺住職)「かの土へはまいるべきなり」	正尚氏(隨縁寺住職)「人と生まれて」

仏教×グリーンフケア 16

尾角 光美

コロナ下で亡くすということ

今、みなさんの大切な人が病気になるって、入院をして、もし死に直面するような状況になったとき、一体それはどのような経験となるのでしょうか。私たちの団体は『コロナ下で死別を経験したあなたへ』という冊子を作成し、コロナの影響下で死別を経験された方々に無償で一万部を配布しています。今年四月から現在までに、五百件、四千冊をお届けしてきました。今回は、その冊子をご希望くださった方々のお声を紹介していきます。今、コロナ下で死別を経験することはどういうことなのか。それに対して、どうあればいいのかということを読者の皆さんと共に考えてみたいと思います。

今年の七月にお父さまをご病気で亡くされたご遺族から、「昨年十一月を最後に一度の面会も叶わず、看取することもできませんでした。入院中、たったひとり病氣と闘っていた父のことを思うと、心が張り裂けそうです。手をさすってあげることが、励ましの声をかけることもできませんでした。なかなか気持ちの整理がつかせません」というお声がありました。また「コロナで母を亡くしました。入院後は面会はおるか最期に見守ることもできず、遺骨になって戻ってきた母を受け入れるしかありませんでした。様々な悔いが残っており、気持ちに折り合いをつけるためにも冊子を読みたいと思いました。大事な親族や、友人のお葬式にさえ参列できず、今も実感のないままでどうしてよいか戸惑っているという方もいます。他にも同様のお声がたくさん届いていますが、おそらくこれは氷山の一角に過ぎず、亡くなった理由が新型

コロナであれ、他のものであれ、「最期に会えない」ということが日本中のいたるところで起きているのが伝わってきます。病院によっては、タブレット端末などを利用して、せめて顔を合せて話ができるようにと工夫をされているところもあります。ただ、現場も逼迫していたり、医療機関によっても対応がかなり異なるため、「手紙さえ受け付けてもらえなかった」と涙を流しながらお話ししてくださった方もいました。十分なお別れができない、ということは以前の連載（仏教とグリーンフケア⑧）でもお伝えしましたが、「あいまいな喪失」を引き起こし、複雑な心身の状態につながる可能性があります。そうした状況を回避したいと思っても、自分たちの意思だけではどうにもできない状況が、コロナの影響によって起きているのですが、どうしたらよいのでしょうか。

できないもどかしさ、医療や社会への怒り、今は何も感じられないなど、いろんな反応や感情を経験することと思います。そのどれもおかしなものではありません。まずは今の自分の状態を「ままだ」見ていくこと。ままならない自分も、ままだに受けとめていく「あり方」が手がかかりになればと願っています。どうにもならない苦しみを自分がかかってくるのだらうと思いますが、私は九年前に兄が亡くなった時、死後二週間ほどの発見で、死因もわからず、遺体にも直面できませんでした。直後は「苦しみながら一人で亡くなっていったのではないか」と思い込んでいました。でも、お浄土の話を僧侶の仲間から聞かせてもらい、何度も何度も「あなたのお兄さんは今、苦しんでいないと思う」と重ねて聞かせてくれたことで、私の中にあつた何か解けていきました。これはあくまで、私個人の経験ですが、ありませんが、お浄土の世界があることで安らいでいる兄を想うことができず、コロナ下での死別は、とても不確かだったり、あいまいだったりする経験なので、「確かに救われるのだ」と信じられることは支えになるかもしれません。

※冊子をご希望の方や、内容をご覧になりたい方はこちらへ。  
https://liveon-corona.studio.site/

別院定例法座

午後1時から

3日 三日のご坊

9月 講師 夏野 了氏(満成寺住職)  
講題 「自分に出会う場所」

10月 講師 佐藤 義晃氏(了徳寺住職)  
講題 「自分みつけ」

28日 親鸞聖人ご命日法座

9月 講師 内記 洸氏(性還寺副住職)  
講題 「此の世界・彼の世界 一・二つの世界」

10月 講師 小原 宗成氏(圓龍寺住職)  
講題 「お念仏申すとは」

ひだご坊 一口法話

URL:https://hidagobo.jp/sermon/

10月1日から31日の期間は右の方々の法話を随時掲載してまいります。

- ・三島 多聞 (別院輪番)
- ・春國 文春氏 (玄興寺住職)
- ・三島 大蓮氏 (真蓮寺住職)
- ・夏野 了氏 (満成寺住職)

次号の『ひだご坊』発行は11月1日となります。

お仏壇 お磨き 代行いたします

花瓶など真鍮仏具、輝いていますか? ほりお 仏壇工芸

ボックス・アイオー 「イラストで知ろう! 東本願寺」

大谷婦人会 9月11日(土)午後1時から

保険タイム ドローン空撮

久寿玉 KUSUDAMA 平瀬酒造店

温度差でおこる怖いヒートショック 小林ベニヤ

相続 相談無料 河合亮一司法書士事務所

お墓の新設 リフォーム クリーニング 墓じまい 株式会社奥田石材